

〔図書館〕 行政経営計画書（総括表）

■事務事業の総括

[illegible]

令和5年度 事業別行政経営計画書

所属名	図書館	予算科目 款-項-目（事業）	10-5-3(3)
事業名	図書館運営事業		

■基礎情報

目的	時代や利用者のニーズを的確に把握して、利用者に対して必要な図書や資料の提供に努め、利用者の増加を図る。そのために、利用者が新たな図書と出会える場を積極的に創出し、図書館サービスの向上を図る。 小さな時から本に身近に触れ、本に親しむ習慣を育み、読書活動の推進に努める。郷土資料を“文化財”として守り、後世に伝える。	
事務内容	・ 図書館の広報に関すること ・ 図書館年報の作成 ・ 図書資料の貸出・返却に関すること ・ レファレンス(参考調査)に関すること ・ 図書館資料の選書に関すること	・ 郷土資料の収集・保存等に関すること ・ 読書活動の推進に関すること ・ おはなし会・上映会等のイベント開催に関すること ・ 図書館資料の分類・整理及び目録作成・保管に関すること
現在における経過又は課題	1 開館からすでに40年が経過し、多様化・高度化する住民ニーズに応えるために蔵書数を拡大してきた。そのため、高い書架なども増え、図書館自体の空間がかなり物理的な窮屈感・閉塞感が見られる。施設の面積には限界があるため、さらなる住民ニーズに応えることが難しいのが現状である。 また、新型コロナウイルス感染症と共存していくためには、利用者が安心かつ快適に図書館を利用できるように、「空間的余裕」が必要なため、今度どのように空間を作るかが課題となる。 2 幼少期から図書に触れることは「読解力」を高めることにもなることから、これらを見据えた事業展開や資料選定が必要である。また、これからを担う10代の利用者にとっての魅力のある資料(図書)をどのように取り込んでいくかが課題となる。 3 公立図書館の価値として郷土資料の収集・充実があり、書籍の電子化が進む中で物理的に製本されない書籍をいかに収集していくのかという問題がある。町でも冊子化しないもの(例：〇〇計画)など、電子媒体のみで作成されたものをどのように収集管理していくのか検討課題である。 4 松江市との姉妹都市提携により堀尾吉晴公を始め、大口町の歴史に対する関心が高まっている。郷土を知り、愛着と誇りを持つために、いかに郷土資料を広く住民に提供するかが課題となる。	

令和5年度の 目標又は 改善策	1 老朽化、施設の面積拡大は町としての長期的な課題である。すぐに建て替え等の対応は困難なため、住民ニーズを下げないよう蔵書を維持しながら、新型コロナウイルス感染症と共存していくため、現在の資源で空間が作れるよう、書架の配置換え、書庫の増設等で「空間的余裕」を作り出す。 2 児童向け事業として、子どもの読書推進事業で特定非営利活動法人「子どもと文化の森」と協働で実施し、幼いころから本と触れ合う事業を実施する。 利用の少ない10代に向けて、学習スペースでアンケートを実施し、「生の意見・希望」をできる限り反映させた選書を行い、魅力がある図書を充実させる。 現在ヤングアダルト世代に人気の「ライトノベル」が児童室にあるが、その世代が児童室に入って借りるには利用しづらい状況である。このことからロビーにティーンズコーナーをつくる。 3 郷土に資料や町からの発刊物の現状を調査し、「電子化されているもの」「書籍しかない物」を選別し、可能なものから電子化を進めてデータの蓄積をしていく。また、それらの管理方法や場所（書架の確保）等、物理的資料（書籍）と電子書籍を複合化した形の「郷土資料」として電子書籍化できないかも検討する。 4 大口町の歴史に対する関心を持ってもらえるよう、歴史民俗資料館と連携し、堀尾吉晴公の情報や松江の資料を常設する。
-----------------------	---

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の体系		基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する				
		基本政策	第 1 節	生涯学習の推進				
成果指標	利用者ニーズにあった図書館サービスの提供 蔵書点数と貸出点数／人口							
	H25 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値
蔵書点数	84,384 点	96,944 点	93,699 点	93,578 点	95,083 点	96,441 点	98,000 点	105,500 点
貸出点数 ／人口	9.7 点	9.1 点	6.0 点	5.6 点	7.7 点	8.0 点	11 点	12 点

成果指標	子どもの読書活動の推進 おはなし会・上映会参加者数と児童図書点数							
	H25実績値	R1実績値	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R7目標値
参加者数	210人	374人	0人	18人	126人	1,434人	300人	500人
児童図書点数	32,390点	36,195点	35,159点	34,695点	35,489点	36,459点	40,000点	41,500点

成果指標	住民・企業・行政の協働による図書館サービスの支援体制の充実 ボランティア登録者数とスポンサー登録数							
	H27 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値
ボランティア 登録者数	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	6 人	20 人
スポンサー数	0 団体	16 団体	15 団体	15 団体	15 団体	14 団体	17 団体	20 団体

成果指標	・ 図書館サービスの強みを生かし、時代に合った形での情報発信をしていく。 ・ 町内企業、団体のパンフレットや求人募集の掲示など、郷土の企業の特徴や魅力を発信する。							
	H25 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値
入館者数	104, 212 人	97, 839 人	48, 008 人	45, 863 人	69, 662 人	74, 031 人	150, 000 人	200, 000 人
郷土資料 点数	2, 580 点	3, 152 点	3, 140 点	3, 676 点	3, 741 点	3, 829 点	3, 700 点	3, 000 点

■ 3 年間の目標

目 標	・ 利用者の増加 ・ 図書館事業の参加者の増加					
	項 目（単位）	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
	図書館利用者数	23,161 人	32,724 人	33,395 人	33,000 人	33,000 人

■ 2 年後、3 年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R6 年度	郷土資料を電子書籍化する。
R7 年度	書籍を電子書籍として導入する。

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
通年	学習スペースと児童室で学生向けのアンケート調査を行う。
4	・こどもの読書週間 4月23日～5月12日 ・郷土資料を電子書籍化するためのデータ収集
6	・課題図書の貸出し開始 7月1日～8月31日
9	・特別館内整理期間 下旬
10	・読書週間 10月27日～11月9日 ・第1回図書館協議会
11	・ふれあいまつり参加 11月上旬
12	・第2回図書館協議会
1	・特定非営利活動法人「子どもと文化の森」との協働事業
2	・第3回図書館協議会

■目標又は改善策に対する取組内容

10代以下向けにアンケートを行い、情報収集をして本の選書を行った。また、幼少期から図書館で本を借りて読む習慣をつけるため、小学生以下対象のスタンプカードを導入した。

児童室にライトノベル小説があったが、10代以上が児童室に入りにくく、あることを知らない人が多かった。このことから、ライトノベルコーナーをロビーに設置した。

電子書籍の現状を調査し、図書館協議会で電子書籍導入の検討を行った。結果、電子書籍の導入は見送りとなった。このことから、現在の電子郷土資料をすべて紙媒体にして保存を行った。また、現在図書館で所属している行政郷土資料を洗い出し、全課に依頼。抜けていた郷土資料や新たに作成された郷土資料の収集を行った。

■評価

アンケートを取り入れて魅力ある本を充実させ、小学生以下対象のスタンプカードも導入した結果、1年間でスタンプカード満了者が89名、小学生以下の年間利用者も500名以上増となり、課題であった「図書館で本を借りる習慣をつける」という目的の効果が出了。そのため、今後もスタンプカードを継続して行っていく。

利用の少ない10代の本離れが課題であったが、ライトノベル小説の蔵書を増やし、ライトノベルコーナーをロビーに設置した結果、高校生世代の利用率を増加させることができた。

図書館協議会で電子書籍導入の検討を行ったことで、電子郷土資料の今後の取り扱いの方向性を決定できた。また、行政郷土資料を全課に周知したことで収集をしなければならないという意識付けにつながることができた。